

## 連携先世界遺産：醍醐寺

### 本科目が取り組んだ課題・改善事項

醍醐寺を舞台に人びとが紡いできた「祈り」を可視化し、  
今後も新しい祈りを紡ぎ続けられるような場とすること。

#### ■受講生

天野 言美（龍谷大学社会学部2年生）、桑江 成美（龍谷大学政策学部4年生）、高橋 知輝（龍谷大学社会学部3年生）、  
田中 美希（龍谷大学社会学部1年生）、徳田 舞美（龍谷大学社会学部1年生）、福田 七海（龍谷大学社会学部3年生）、  
松本 彩見（龍谷大学社会学部1年生）、横田 藍（龍谷大学国際文化学部4年生）、吉中 直人（龍谷大学社会学部1年生）

<メンター学生>長谷川 大介（龍谷大学・社会学部・3年生）

#### ■担当教員

笠井賢紀（龍谷大学社会学部専任講師）

### 活動目的・概要

私たちは、醍醐寺に関わる人たちが大事にしてきたことに耳を傾けてきました。たった数ヶ月の関わりでわかりやすい「課題」を発見して対応するためのイベントをするよりも、数百年にわたって大事にされてきたことを出発点とするのがふさわしいと考えたからです。

醍醐寺境内で醍醐寺の方たちとともにいった合宿や、醍醐寺と関わる活動や仕事をされているかたがたへの日々のインタビューを通じて、「祈り」と「つながり」がキーワードだとわかりました。仏像にも、寺にも、そしていろいろな仕事や活動にも、すべて始めた人の熱い思いが込められており、これを「祈り」と表現できます。醍醐寺は多くの人の小さな祈り・大きな祈りが込められた場でした。そして、ある人の祈りを次の世代へとつないだのは、醍醐寺の豊かな人のつながりや、教えです。

「京の杜プロジェクト」や「てらこやプロジェクト」といった複数の活動、そして醍醐寺で働く方たちの祈りに触れながら、私たちは、今後も醍醐寺が祈りを紡ぐ場であるためにはどうしたらよいか模索しているところです。



#### ◆主な活動

2015. 4. 16 オリエンテーション  
2015. 4. 18 醍醐寺訪問  
2015. 4. 23 PBL論（課題発見基礎）  
2015. 4. 30 〃  
2015. 5. 7 〃  
2015. 5. 14 〃  
2015. 5. 28 〃  
2015. 5. 30 全体オリエンテーション  
2015. 6. 4 合宿準備  
2015. 6. 11 〃

2015. 6. 20-21 醍醐寺にて合宿

#### 【合宿後】

- 毎週木曜：通常講義（PBL論）
- 不定期：チーム活動
  - ▼醍醐寺行事（万灯会など）への参加
  - ▼活動団体、企業、関連学校聞き取り
  - ▼醍醐寺関係者聞き取り

#### 【今後】

- 祈りの可視化（＝展示会）に向けた活動

## 活動の成果

### 課題の発見(醍醐寺合宿)

6月に醍醐寺で合宿を行い、関係者とともに2日間にわたるワークショップと講義を経験しました。

ワークショップでは3チームに分かれた境内歩きの結果として「人のつながり」を醍醐寺が重んじてきたことと、実際につながりが根付いていることを確認しました。

また、講義では醍醐寺が脈々と受け継いできた「祈り」についての理解が進みました。何かを作った・始めた人の強い思いが祈りとしてものや活動に込められています。

こうした祈りを、人のつながりを生かしつつ今後も伝えていくこと、そして新たな祈りが生まれる場所になることを課題として設定しました。

### ポストカード制作

課題への取組自体が、人のつながりを重視した方法で行われるように、さまざまな祈りをもっている方たちに醍醐寺の紹介を受けて取材しました。その上で、印象的な写真とエピソードを用いたポストカードを制作しています。

現在、受講生とメンターが各1種ずつ、合計10種のポストカードができており、今後さらに1種ずつ、合計20種を作り1セットとします。

今後、醍醐寺と協議の上で配布等の方法を決定します。ただ配布するだけではなく、受講生一人ひとりがポストカード制作にあたって込めた思い(祈り)を受け取る人にも伝えられるように、手渡しイベントを検討しています。また、関係者にはポストカードを直接郵送したいと考えています。



## 活動を振り返って

- 醍醐寺さんと関わらせていただく中で、醍醐寺に関わる方々は1人1人「祈り」がある事に気づかされました。(田中)
- この授業を通して、今まで自分の知らなかった事を本当にたくさん学ばせていただきました。多くの方のご協力があって、この日を迎えられたと思っています。(徳田)
- 授業メンバーと助け合い、刺激を受けながら学んできました。この授業によって結ばれた醍醐寺さんとの「縁」をこれからも大切にしていきたいと思えます。(松本)
- 「祈り」を伝えられるのはいろいろな人たちとの「つながり」があるからこそできることだと思っています。そしてこれからも「つながり」を大事にしていきたいです。(吉中)
- ここまで全員が楽しく、真剣に、そしてお互いを支え合いながら取り組んできたからこそ、今日この報告会を迎えられたと思っています。(天野)
- 学習という面ではもちろんのこと、「つながり」や「祈り」と言ったこの機会でしか学ぶことができないようなことを体験することができました。(高橋)
- 醍醐寺さんに関わらせていただく中で、醍醐寺がたくさんの人々の「祈り」によって長い歴史を歩んできたこと、今も醍醐寺に関わるたくさんの人の「祈り」があることを知りました。(福田)
- 醍醐寺にあるたくさんの祈りを知ったり、多くの方と交流する中で醍醐寺がどんどん好きになっていきました。(横田)
- 常連のお客さんや近所の高校生に出会い、更に企業の方や校長先生からお話を聞くことで普段は見えない「醍醐寺に関わる人の縁」の一部を見ることができ、嬉しかったです。(桑江)

## 担当教員からのコメント

本科目の一期生である9人の受講生と1名のメンターは、一年生が多い中で主体的によく動いた。だが、醍醐寺が提供してくださった資源（人、時間、場、…）を有効に活かすことは十分にできていないように思う。今年度は、まずは1年を通じて活動をしてみた、という段階であった。来年度は今年度の受講生をメンターとして迎え、現場と本気で向き合い、一定以上の時間を掛けた課題発見・解決に取り組みたい。

とはいえ、今年度の受講生も成果報告会を終えた時点で正課としての単位が得られる十分な時間と内容を積んでいながら、年明けにも活動を継続したいという意欲を既に見せている。その意味で、正課報告会あくまでフォーマルな場での区切りであって、彼らと醍醐寺との関わりには区切りがないのだと思われ、心強い。

# 活動資料



普通の授業風景(キャンパスプラザ京都にて 毎週木曜16:20-17:50)



合宿でのワークショップの様子



合宿振り返りを兼ねた懇親会



醍醐寺でのスタッフ協議の様子



年間を通じて更新を続けたFacebookページ  
<https://www.facebook.com/pbl.daigoji.ryukoku/>